

私学助成署名推進ニュース

全国私学助成をすすめる会
 (事務局：全国私立学校教職員組合)
 No.18 2020年10月6日(火)

10月3日(土)山形県山形市で第43回「山形県私学フェスティバル」が開催されました。コロナ禍の中で、「開催の判断は大きく揺れましたが、7月には「開催」を判断しました。動画上映などの工夫で、できるだけ多数の高校生や部活の姿を発信できるようにしました。岩手の学習会同様、「コロナ禍の中でもできることを」に踏み出した典型のとりくみといえます。

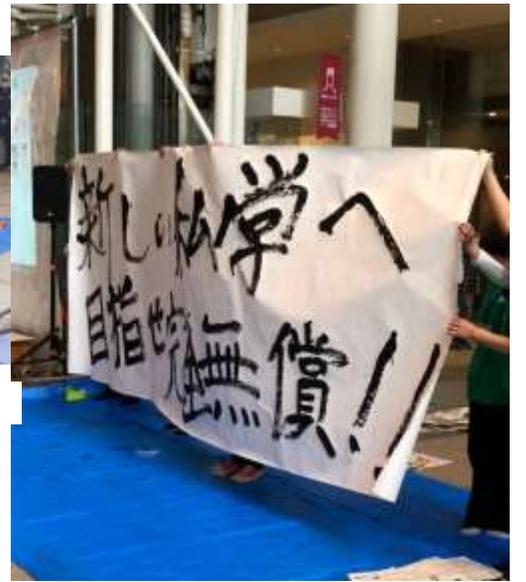
フェスティバル開催まで…これまでの運動の積み重ねを確信に今年のとりのくみの展望に

街に人が戻りはじめてきた10月3日(土)、山形県山形市の山形駅西口霞城セントラルビル一階にて、「第43回山形県私学フェスティバル」が開催されました。高校生のフェスティバル実行委員会の引き継ぎの時期が、緊急事態宣言による休校期と重なりました。先輩達からの継承も、そして新入生に「私学フェスティバル」の存在を知らせる場面も作れませんでした。また、新入生の父母に「私学をそだてる会」の存在を知らせ勧誘することもままならない状況でした。加えて6月に計画していた東北父母懇談会も延期の判断をせざるを得ない中でしたが、「山形県私学助成をすすめる会」と「山形県私学をそだてる会」は7月5日、父母34名生徒6名教職員16名の57名が集う中で「総会」を開催しました。コロナ禍という厳しい環境の中でしたが、授業料減免制度の到達点を三者で確認し、それを実現させた2019年度の活動を振り返る中で、フェスティバル開催の方向が確認されました。昨年、知事室での署名提出に参加した高校生が生の声を届けたことなども、フェス開催に向けた確信のひとつとなったようです。

パフォーマンス
 部活動参加
 動画コラージュ…
 さまざまな形で発信



オープニングでの「そだてる会」父母による書道パフォーマンス



フェスティバルは10:30~90分、セレモニー中心のコンパクトな形で計画されました。英語検定、部活の大会などがぶつかり生徒参加は大規模な人数には成りませんでした。朗読劇への出演、舞台背景の映像(パワーポイントによる)の作成・操作、高校生アピールなどで活躍しました。



← 山本学園高校 書道部の書道パフォーマンス

山本学園高校書道部が実参加で「書道パフォーマンス」を披露し、私学の高校生の澁刺とした姿をアピールした他、東海大山形高校の吹奏楽部と山形明正高校の伝統芸能部(和太鼓)が演奏の動画上映という形で参加しました。

セレモニーの最後では、合唱動画が上映されました。動画をコラージュするという形で「父母・教師・生徒」それぞれが唄う「パブリカ」の画像を合成し、「合唱」の形に編んだものです。会場全体で手拍子で鑑賞しました。



朗読劇の1場面 ↑

3名の国会議員と多数の県議会議員、市議会議員が来場 涙を浮かべる議員も



山形のフェスティバルは、毎年県議会議員全会派の代表が参加され、国会議員も参加、山形市長が参加されたこともあります。案内は出しましたがコロナ禍ということもありお返事も少ない状況でした。ところが当日は、予想を覆して3名の国会議員をはじめ、県議会議員、市街議員が多数来場されました。こうした中でしたが、動画参加のパフォーマンスもしっかりと見ていただきました。閉会后には、お二人の国会議員と県議会議員お一人と高校生が記念撮影をしました。コロナ禍の状況下でのフェス開催、生徒参加に心を打たれたのか、涙を浮かべて生徒に声をかけてくださる議員もおられました。

